

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科

名前 岩澤 浩一

作成日 2023年3月22日

【責任】

工学部建築学科に所属し専門領域である建築意匠設計を中心とした教育・研究活動を行っています。主たる教育活動は建築設計・計画関連科目（建築設計演習・建築基礎製図・建築計画・西洋建築史など）の担当、ゼミ生の研究指導です。その他に建築学科のアニュアルブック作成などの広報、札幌市や北海道開発局の外部審査委員、日本建築学会北海道支部の作品発表会幹事・作品選集審査委員なども務めています。

【理念】

学生には機会を得たり、周囲の人とよりよく協働するために人間性を高め、自ら問いを立て社会の変化や技術の進歩を捉えながら建築で何が可能か前向きに考え行動できる人材を育成する。自分の経験からも様々な人から機会を与えて今に至っており、機会に応じて一度決めたら前向きに取り組むことを大切にしてきました。

【方針・方法】

方針1 「信頼される人材を育てる」

一緒に建築を探求するパートナーになってもらうことが理想です。一定の社会性を身につけてもらい、様々な人たちと信頼関係を築くことができる人材になってもらいたいと考えています。そのために学内でも以下の方法で学生と接しています。

方法1: お互いに時間を守る。

方法2: 学生にも敬意を払う丁寧な言葉で接する。

方針2 「前向きな思考力を育てる」

実社会ではポジティブな思考ができないと新しい建築は作れません。現状をよく見て前向きに転換させる発想を身につけてほしいと考えています。

方法1: 学生の提案について原則否定せず改善点や良い点を指摘し自分で気づくきっかけを伝える。

方法2: 結果と同時に課程(成長)も評価する。

方針3 「専門性を備えた人材を育てる」

一級建築士の取得に向けて前向きな姿勢を後押しする。

方法1:資格試験の枠組み、取得後の就業への効果や意義を伝える。

方法2:実際の建築と資格試験の問題をできるだけ結びつけて伝える。

方法3:放課後にエクステンション講座を2019年に新設。過去問や試験対策を外部講師からも学生に伝える。

方針4 「好奇心をもった人材を育てる」

既存の知識や方法の会得だけでは変化に対応できません。状況を読む力と柔軟性を身につけると共に、歴史を学び、本質的に重要なことも身につけてほしいと考えています。

方法1:時事のトピックや身の廻りの事と結びつけて話す。当日まで修正、改善して授業にのぞむ。

方法2:学生の思考の周辺にどういった学習領域が広がっているのか本や実例を具体的に示す。また、外部講師の講演会などを積極的に企画・開催する。

【評価・成果】

研究室の学生について

- ・意欲的な学生がゼミに集まるようになった。
- ・ゼミ学生の自発的な問題意識が高まった。
- ・自身の研究活動が学生指導にも役立っている
- ・設計エスキス・講評においてポジティブな思考、更なる思考を促すやり方を他教員から評価された。
- ・講演会の企画などで学科が活性化していると学外者から評価された。

研究活動について

- ・日本建築学会計画系論文集に今年度2本の学術論文が採用された。

【目標】

教育の目標

- ・実社会で活躍できる建築家や教育者を一人でも多く育成すること。
- ・国内外から建築家を招いた講演会の企画・開催。
- ・学年上下間の接点を作るための授業の立案。(設計演習総合講評会など)
- ・フィールドワークなど発見的な授業の導入。

研究活動の目標

- ・建築家として作品と学術論文の双方で発信し、社会貢献する。
- ・2023年度4月から博士論文の予備審査に臨み、9月学位取得に向けて博士論文執筆活動の遂行する。